

## おおの通信

第103号

5月19日に「大野振興会定期総会」を開催し、ご出席の皆様にご承認いただき、新たな体制で出発致しました。どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 就任の挨拶 —山口恒一振興会長—

周囲の山々の緑が一段と濃くなるこの頃、皆様におかれましては、健勝でお過ごしのこととお慶び申し上げます。この2年間、地域の皆さまにご協力をいただき、おかげさまで大野振興会の事業を順調に行うことができました。ありがとうございました。

前半の1年、大野小学校の閉校に向けて地域をあげて取り組んでいただき、大野小学校の143年の歴史に幕を閉じるに相応しい、思い出に残る様々な事業が出来ました。またこの1年は、小学校の跡施設の活用の具体化に取り組むことができました。この春から、地域の活動拠点、交流施設となる南丹市の施設『大野虹の湖交流センター』として新たにスタートすることになりました。

昨春の大野ダムさくら祭りは京都府の「森の京都博」のオープニングイベントとして、例年以上に華やかに開催でき、また秋の美山町体育大会では2期連続で優勝するなど、元気な大野を感じる思い出多い年となりました。

5月19日の定期総会でご承認いただき、引き続き平成29、30年度の会長として務めさせていただくことになりました。新たに役員となる6名と再任の5名の役員のバランスの良い役員体制が整いました。

「大野虹の湖交流センター」が地域振興・交流の拠点として根付くことを最重点課題として、役員一同力を合わせて様々な事業に取り組んで参ります。皆様の更なるご協力をお願い申し上げます。



## 平成29年度 美山町大野振興会活動方針

## (1) 大野虹の湖交流センター活用事業「美山大野36プロジェクト」を推進します。

- ① 利用者の使用目的に適した施設に改装を行い、利用の拡大を図ります。
- ② 交流センターでの事業を企画・運営し、地域の活性化に繋げます。
- ③ 校舎をオフィスや活動の拠点として活用する個人・団体を発掘し、利用の拡大を図ります。

## (2) 大野地区への定住・移住を促進します。

- ① サテライトオフィスとして入居する企業の活動を支援し、地域との連携を図ります。
- ② 京都府および南丹市の定住支援事業を活用し、居住可能な住宅に改修する支援を行います。
- ③ 「京の田舎ぐらしナビゲーター」として、移住希望者に住居の紹介などの支援を行います。

## (3) 地域の生活基盤・産業基盤の充実に取り組みます。

- ① 集落の要望・地域の要望の実現に向け、行政に積極的に働きかけを行います。
- ② 「肱谷バイパス事業促進協議会」を窓口に行行政機関と協議し、早期着工に取り組みます。
- ③ 鏡坂峠開通実現に向け京都府への要望活動を継続して行います。

## (4) 地域の主要産業である農業の維持、農産物等の販売拡大に取り組みます。

- ① 道の駅「美山ふれあい広場」の改修・拡大の計画に参画し、大野地区の食品・野菜などの生産・販売の拡大を図ります。
- ② 地域の伝統食・特産品の継承に取り組みます。
- ③ 大野ふれあい館の厨房の活用を推進します。
- ④ 京都府や南丹市の里地・里山環境整備支援事業を活用し、地域の環境整備や 獣害の低減に取り組みます。

## (5) 安心して暮らせる安全な生活環境づくりに取り組みます。

虹の湖ネットワーク推進会議と連携し、高齢者の見守り、学童の通学の安全に取り組みます。

## (6) 地域の皆さんが健康で、こころ豊かに暮らせる事業を行います。

- ① 大野地区運動会やスポーツ行事を開催し、住民の健康・体力づくりを推進し、交流を図ります。
- ② 人権意識の向上、こころ豊かな生活を送れるための文化事業を実施します。

## (7) 京都丹波高原国定公園の西の玄関口・大野ダム公園を拠点として交流事業を推進します。

国定公園の公園道としての虹の湖周回ルートの整備を促進します。

## (8) 先人が守り育ててきた伝統文化、自然環境を維持・継承し、住民が誇りをもって暮らす地域づくりを目指します。これらの活動に取り組む団体を支援します。

## (9) 大野地域の中長期の将来構想の作成に着手します。

人口減少に歯止めがかからず、高齢化が進み、集落の維持機能が難しくなっています。大野地域を将来的にどのような地域にしたいかを考え、計画を立て、計画に基づいて実行していくことが重要です。

大野地域の5年後10年後の将来構想の作成に着手します。

# 平成29年・30年度大野振興会役員

会長 山口 恒一  
副会長 山名 英夫

	部長	副部長
企画総務部	福原 英樹	藤原 久代
産業部	福本 晃	下野 純一
生涯学習部	梅津 博英	藤原 正昭
文化観光部	東 晋也	大中 玲子
事務局長	中村 誠	

地域の皆さま、よろしくお願ひ致します。

## 「地域の活力」紹介

活動の内容や目的は様々ですが、地域ごとに特色を持った活動がこの大野地区にはいくつかあり、地域の「活力」となっているのは間違いありません。今回は地域の活力となっている活動団体をご紹介します。

### 「仁清生誕の地」を生かした里づくり

#### ～仁清の里づくり委員会～

会長 尾上 逸夫

野々村仁清は大野で生まれ、本名野々村清右衛門といい、現在は日本の名陶工・京焼の祖と言われています。生没は不詳とされていますが、本会の永年の研究では、慶長18年(1613)に大野で生まれ、元禄7年(1694)頃没したと推定されています。12歳で丹波立杭へ奉公に出てロクロの技術を身につけ、京の粟田口へ出てさび絵の釉薬、下絵付けの修行を積みました。その後、尾張瀬戸で茶碗や茶入の技術を得て、瀬戸では茶匠「金森宗和」を知ることとなり、再び京へ帰った彼は仁和寺の門前で窯を開き、これまでの技術を生かして色絵陶を完成させました。

この頃、茶匠金森宗和(1584～1656)の庇護と指導を受けて正保4年(1647)頃「御室窯」を開窯し、後世に残る数々の名品を作り続けました。その素晴らしい技術は仁和寺宮や宮廷文化サロンからも認められ仁和寺から「播磨大じょう」という



恒例行事のひとつ赤原登山

受領名と、仁和寺の「仁」の字を賜り、清右衛門の「清」と合わせて「仁清」と作品銘を付しました。このときが「野々村仁清」の誕生で、仁清の作品はそのほとんどが「茶」に関係する作品です。ふるさと大野が茶の生産地であることや、金森宗和の影響がうかがい知れます。この偉大な先人を私たちはふるさとの誇りとして、称えていかねばならないと感じています。

そこで大野区では平成13年、大野区総会に於いて区民総意で「仁清をたたえる会」を結成しました。規約の制定、案内板作成など活動が始まりました。この仁清を軸にして、16年間、「仁清まつり」や陶芸教室、お茶会、赤原登山など住民活動を続け、広く仁清を知ってもらうために、啓発に努めてきました。

少子・高齢化で疲弊している地域がいきいきと活性化するために、地域を再発見し、自分たちでできる喜びを感じ、地域に愛着を感じてもらうよう発信し続けたいと思っています。



毎回好評の陶芸教室の様子



今年度も「おおの通信」を発行し、地域の情報を発信して参ります。地域の行事や身近な出来事などありましたら、振興会までお知らせください。ご協力をよろしくお願いします。

企画総務部